

桜川

第24号

市議会だより

平成23年8月1日



SAKURAGAWA

～四季の風景シリーズ No.11～

黒こだまスイカ (真壁町大塚新田)



議会目録

- 5月 19日 文教厚生常任委員会
24日 議会全員協議会
- 6月 8日 議会運営委員会
9日 議会全員協議会
9日 総務常任委員会
9日 建設経済常任委員会
14日～17日 第2回定例会
15日 議会広報特別委員会
23日 中核病院を考える会特別委員会
27日 議会全員協議会
29日 議会全員協議会
- 7月 6日 中核病院を考える会特別委員会
14日 議会広報特別委員会
21日 議会広報特別委員会
22日 中核病院を考える会特別委員会

編集後記

3・11は、生涯忘れられない日になるのでしょう。6月はじめ、市民の方々から寄せられた救援物資を車にぎっしり詰め込んで、岩手県陸前高田市に行ってきました。岩瀬を朝7時半に出発し、途中休憩を2回しただけで、午後1時半には現地に着きました。きれいな緑の野山が一変し、瓦れきだらけの津波跡。テレビで見ていた風景のはずですが、生の迫力は全く違います。

重機が行き違い、ほこりだらけの片隅に、救援センターがありました。さっそく荷物をおろし、現地で一杯だけお茶をいただき、すぐ帰途につきました。これから夏に向かいます。必要とする救援物資もさまざま、変化します。まだまだ救援物資を必要としているのは確かです。往復900キロ、岩瀬帰着は出発から13時間後の夜8時半でした。

6月末からは、桜川市民は、水戸以北の高速道が無料になる被災証明書をもらえます。多くの皆さんが、救援物資を届けながら、津波被害の現状を見ておくことも必要ではないでしょうか。



菊池伸浩

議会広報特別委員会

- 議長 相田 一良
- 委員長 川那子秀雄 副委員長 菊池 伸浩
- 委員 飯島 重男 委員 仁平 実
- 委員 鈴木 裕一 委員 萩原 剛志

私のメッセージ



稲区長 泉 三郎さん
桜川市西小墾

小さな地区の小さな営み

「昨日の地震は大変でしたね」
「いや、見てくださいよ。屋根がわらは落ち、壁は落ちメチャクチャですよ。昨夜は怖くて眠れませんでしたよ」
「いや、大変でしたね。けがした方はいませんか」
「よかったですね。今のところ地区内にはけが人はいないようですよ」
早速、地震の翌朝は各班をめぐり、班長さんには、班内の方への飲み水、トイレ、必要があれば班内での炊き出しを依頼し、自宅の応急処置。

三日目からは、高齢者や幼児のいる家庭への飲み水の心配と訪問、公民館のトイレの開放、飲み水の情報提供。近くの豆腐工場のタンクの水、某工場からの飲料水等の提供を受けました。
でも、飲料水が欲しい、トイレが、お風呂が。電気は二日くらいで通電しましたが、断水は十日くらいで、我慢がなくなってきました。やっと十五日目に水が出ました。
この間、各班長さんや相談員さんの方々の被害の状況や苦しみの一端を共有し、助け合うことができました。そして、何とか初期段階を乗り切れました。
問題は公民館です。地震の地盤沈下で、基礎の大谷石が多数はみ出し、たり破損したりしていました。

役員会を開き、修復の話し合いをしました。
「修理をどうしたらいいですかね」
「資金もない。余裕が出てからでも」
「いや、何とかみんなできなにか」
「基礎部を上げれば、大谷石のはみ出しは戻せるか」
「上がるかやってみよう。まずはやってみよう」
「用具は持ち寄ろう。でも、やり方が分からない」
「地区内の大工さん、基礎工事経験者に頼もう」話はトントン拍子に進み、共同作業で修理をしました。
大工さんの指示を受ける者、基礎屋さんの指示を受ける者、工夫してジャッキで土台を持ち上げる者、コ

ンクリート
を流し込む
者、試行錯誤をしながらでも、みんなの知恵と力はすごい。何日もかかりそうな修理を十人余りの役員さんで、一日でやってのけた。
地域も少子化、右肩下りの国民所得の昨今、末端行政区の小さな地区の小さな営みであるが、苦しみや喜びを少しでも共有共労したい。
批評家のテレビの声より、さわやかなホトトギスの声、夏来る。



『私のメッセージ』の投稿をお待ちしています

応募方法：封書・FAXまたはメールで600字以内（氏名・住所・電話番号を記入）
応募のあて先・お問い合わせは市議会事務局まで
TEL 0296-75-3111 FAX 0296-75-6633
〒309-1292 桜川市岩瀬64番地2 E-mail gikai_s@city.sakuragawa.lg.jp